

千原

太田 in Corea と 札幌 in Japan の 架け橋

① 国際交流事業

- 。「海外ホームステイ参加者募集!」とかかれたプリントが学校で配られ、目に留まったことが、参加のきっかけでした。私は以前から、学校の授業なども含めて、海外のことを見聞きするたびに、自分で訪れ、実際にその世界に触れてみたい、と思っていたので、今回のホームステイという異国の普段の生活を共にする中で、それを直に感じたい、と強く思ったことが動機です。

② 姉妹都市「太田」での体験

- 。1日目～17時すぎ頃、仁川空港に到着!! = 韓国上陸!! そこから太田広域市まで、貸切バスで移動。そこから見える景色の美しさ、ハングル文字の標識、日本とのちがい、などに見とれながら、ホストファミリーとの対面が近づいて、楽しみさと緊張を感じていた。高速道路のインターチェンジで夕飯!! 初、韓国本場料理、チーズ入りチキン、キムチ、スーパードーナツ... だった。辛かったが、美味しく、完食した。いよいよホストファミリーとの対面! 会話を重ねていくうちに、すぐに打ち解けることができた。



- 。2日目～ノボスビルスリ、札幌、太田の3ヶ国の全員で、科学博物館や地質博物館、航空宇宙研究所を周った。説明を全て理解できたわけではないけれど、韓国での先端技術や文化にも触れることができた。また、ホームステイ先の家で、1部屋を1人で使わせてくれた。そして朝ごはんは... キンパ!! 自分たちで作り、ソルロンタン、牛テイルスープと一緒に食べた。とても美味しかった。また、韓国では「夜食」があたりまえのようで、1日4食!! というほど、23:00すぎ頃にソリバリの辛いチキンや、お菓子を食った。日本とは違った感覚が、会話をたくさんでき、とても楽しかった。



② 日本と韓国との違い

・3日目～1日中ホストファミリーとすごす日。私たちはキャンプへ行きました。自然のようすや風景は、日本とあまり変わらなかった。やはり、食事には、必ず辛い物、キムチ、カクテキ、スープなどがついていて、慣れない物が多かった。事前に、私は辛いものが苦手だ、と伝えていたが、韓国人の“辛い”の感覚は、日本人と違うものだと気がついた。

・4日目～韓国は、日本と車の対向車線が日本と逆である。つまり、運転席も逆(左側)にある。また、信号も日本と形式が違った。太田の街中を車で通っているだけで多くの日本との違いに気がついた。キャンプから早く帰ってきて、私は、ずつと2人で、繁華街へ行った。お昼にトッポッキ店で本場のものを食べさせてもらい、一番辛い、と感じたが、ハマって、お土産にも買った。そこで知ったのは、“バイク”形式になっていて、食べる量は自由だが、残したら、罰金を払わなければならない、ということだ。“もったいない”ことを防ぐには、良い決まりだと思った。



また、ショッピング中には、韓国らしいものを、いっぱい買うことができ、会話しながらとても楽しく過ごせた。ホームプラス、というお店では、レジぶくろとして、ゴミ袋に商品を入れ、家で、その袋にゴミを入れて捨てる、というムダの減る活動に感心した。

レジ袋としてゴミ袋を無料で配布していた品

・さよならパーティー、5日目は、最後まで“異文化”を韓国で楽しみ、無事に帰国できた。

③ これから

・私にとって、初めての海外、初めての韓国を、現在のよむ日韓情勢の中でも、安心安全で楽しく体験することができました。中学生としてよく身にす、異文化交流の大切さ、というのを、このよむ情勢の中でも、相手と話し、過ごし、仲を深めていく、という1人1人の小さな交流が、本当に、国と国の平和へつながっていくのだろう、と感じました。そして、これからも、良い関係を他の国とも築き、その人たちとの交流をより続け、深め、より楽しむ、幸せを自分で感じ、高めていきたい、と思います。そう思える、素晴らしい経験となりました。

